

特集 「2018年度人工知能学会全国大会 (第32回)」

JSAI 2018におけるOS解説特集にあたって

小野田 崇 (青山学院大学), 大澤 幸生 (東京大学)

本特集は、2018年6月に鹿児島で開催された第32回人工知能学会全国大会 (JSAI 2018) で企画されたオーガナイズドセッション (OS) から選抜された、5件のOSに関する解説記事をまとめたものである。

JSAI 2018では、25件のOSを実施した。JSAI 2017では39件のOSを実施している。これに比べるとJSAI 2018で実施されたOSは非常に少ない。JSAI 2018からは全国大会でのOS開催の趣旨を考え、同じ内容のOSは3回までの実施が可能という条件を定めた。また、OSも研究発表の場であるという立場からOSのセッション形態において特別企画が全体の2割以上とならないよう、時間配分をお願いした。JSAI 2018では同じ内容のOSは3回までの実施が可能という条件から28件のOSを採択した。JSAI 2018では最終的に、採択した28件のOSのうち25件のOSを実施することとなった。

2016年度までは、全国大会特集には各OSからの報告記事が掲載されていたが、1ページ程度の短い記事だったため、セッションの様子などは知ることができても、扱っているトピックや研究内容を詳しく知ることはできなかった。そこで、2017年度から本特集では全国大会にて評価の高かったOSのオーガナイザに、その研究内容に関して解説記事を書いていただくこととした。全国大会におけるOSは、萌芽的な研究テーマや学際的課題など、一般セッションには収まらないテーマについて深い議論を行うことを目的として企画される。すなわち、学会から国際的にも通用する新しい研究テーマを生み出す土台としての役割が期待されているといえる。そのような観点から、解説記事の執筆をお願いするOSを決定することとした。

JSAI 2018の大会優秀賞OS口頭発表部門の表彰においては、プログラム副委員長を委員長とする選考委員会を組織し、OS座長と選考委員による第一次選考と、選考委員会による第二次選考の2段階で表彰論文を決定した。このとき、OS自体の評価も加味して選考を行うため、選考委員がセッションの様子、発表論文の内容などに基き各OSのオリジナリティーや発展性、社会的インパクトなどの多様な観点から評価を行っている。本特集では、選考委員会において評価の高かったOSから下記5件を選抜し、解説記事を執筆していただいた。

[OS-2] コミック工学とAI

[OS-3] 質感と完成

[OS-5] 人とAIが織りなす新たなエコシステム

[OS-8] 異分野データ連携におけるデータ市場とデザイン

[OS-27] 人工知能の医療応用

OS-2は企画ありOSとして、招待講演1件、口頭発表8件から構成されていた。50人以上は入るであろうと思われる部屋で椅子を追加しないといけないほど、参加者がいた。セッションでは、質問が常時3件以上出るなど、活気のあるセッションであった。招待講演では、東京大学相澤清晴研究室で構築している学術データセット (Manga109) の紹介があった。これを使うことで、この分野はかなり広がりをもつことができるのであろうと感じた。

OS-3は、招待講演1件、一般講演6件で構成されていた。参加者数は20~30名程度であった。質感・感性という認知科学の分野であるが、人工知能との関連は深く、興味深い研究も多く見られた。特に、触感や楽器音の認識など、情報としての基底がまだ確定していない (あるいは基底として切り出せるかわからない) 感覚を野心的に取り扱っている点は独自性があり、研究としても深みが出せる可能性を秘めていると考えられる。人工知能の一分野として広がりが期待できる。

OS-5は、潜在力の極めて高い現在のAI技術が、便利や効率のみの目的にてそのレベルをひたすら向上させることに対して、そのようなAIが人や社会にどのような影響を与えるのかを、冷静かつ客観的に考察しようというのがこのOSの趣旨であり、本学会倫理委員会と並び、学会が担うべき重要なテーマを取り扱っている。

OS-8は、発表7件から構成され、データを介して人と人が出会うことで新たな課題を発見し、データと人間の知識連携によって異業種共創が行われることをテーマとして開催された。4件が産業界からの発表であり、データ市場を媒介とした異業種の産学・産産連携といった、新たな共創ステージの誕生を実感させるものであった。

OS-27は、もともと人工知能学会における三つの分離した研究会が統合して行った最初の企画であった。よって議論の方向性は多様であったが、ほぼすべての発表で継続的に活発な議論が展開され、最終日最後のセッションにもかかわらず、立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。医療用AIというテーマが大きな注目を浴びることがうかがえ、今後の展開が期待できる内容だった。

本特集は、応用面において、AI研究の多様性を感じさせる構成となった。今後、これらの研究テーマがさらに発展し、国際的な人工知能研究の一分野として学会に限らず実社会に広く展開していくことを期待したい。